



大野市教育委員会たより

令和元年10月3日発行 第21号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：9月26日(木)午後7時～8時40分	次第	・1部 子育て講演(講師：久保教育長)
場所：誓念寺中野こども園		・2部 意見交換
対象者：誓念寺中野こども園保護者(4人)・保育士(18人)		

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎まだ子どもが3歳で小さく、また家庭の事情で小学校入学時に大野にいるかどうか分からないため、学校再編を自分事として感じていない。
- ◎市外から引越してきたばかりで現状がよく分かっていない。周囲の人も学校再編について敏感でない感じである。他の人が再編についてどのように考えているか、真剣に考えているのか心配である。登校で、親が車で集合場所まで送迎し、そこから学校へ行っているという話を聞いたが、毎朝そのようにしなければならないのか。
⇒ ■基本は集団登校となっている。その良さは1人で歩くより、集団の方が車が気付きやすい。また、高学年が1年生の時の経験を基に、ゆっくり歩くなど低学年の面倒を見るという学びが出来ている。下校は、昔は個々だったが、大阪の事件を受け集団下校に変わっている。児童数が減ってきており、1地区で集団を組めないため、地区を合わせて集団登校する場合もある。集団登校については、学校で責任を持って登校の方法を検討する。1月下旬頃に行われる入学説明会の時に、相談いただければと思う。
- ◎子どもが病弱で特別支援学級で個別対応を受け助かっている。再編された場合、現在の特別支援学級のような人数で対応してもらえるのか。
⇒ ■特別支援学級1クラスの人数は最大8人となっている。(9人になれば2クラスに)障害の種別でクラス編成をしている。また、個々に応じて市が支援員を特別につける場合もある。普通学級には、結の故郷教育支援員や相談員を配置している。再編を行っても同様の支援をしていく。県でも障害を持った児童への支援をしっかりと行っていく方針を出している。
- ◎県外から転入してきたばかりだが、どういう理由で学校再編に至ったのか。どういう理由で見直しになったのか。
⇒ ■平成16年から再編は始まっているが、その理由は子どもの数が減ってきたためである。昔の有終南小は1学年に200人(40人学級、5クラス)いたが、現在は市全体の出生数が200人となっている。学校の小規模化が進んだため、ある程度の規模で学校教育を受けさせたいという考えである。(平成16年度から今年度までの再編の取組み経過を説明)
平成29年1月に策定した学校再編計画については、昨年就任した市長の公約通り、学校の校数、再編時期、再編方法を見直すこととしており、今年から、教育シンポジウムや意見交換会など、多くの方々から意見を聞く取り組みを進めている。来年度は、見直し案の検討を行い、その案を皆さんに説明させていただく予定である。
⇒ ◎教育委員会では、ある程度の数にまとめた方がいいという考えなのか。
⇒ ■一定規模の学校が必要だと思っている。どのくらいの規模が適正かなどを意見交換で聞いている状況である。(各小中学校の学級数、中学校の部活動や専門教職員の配置状況を説明)
- ◎小規模の小学校に子どもが在学しているが、入学するとき不安は1つもなかった。子どもも学校へ行きたくない

という日は1日もなかった。小学校で大事に丁寧に育てられてきた分、中学校での生活を心配している。中学校の文化祭を見たが、大きさとたくさんの生徒に圧倒された。現在の小学校で再編の話があった時は、教育上、少人数では難しいのかと感じた。地域でも再編に対して意見が割れてしまい、再編は早い段階で決められれば、みんなが不安になることはないと思った。

⇒ ■自分の子どもも小規模の小学校から大規模の中学校に入学し不安だったが、大丈夫だった。子どもからは「楽やわ、自分と相性の合う子とあればいいから」と言われた。また、中学校では、それまで経験していなかったバスケットボールを始め、3年間続けた。親は心配したが、子どもは大丈夫だと感じた。再編については、教育委員会が様々なことを考え、しっかり決めていかなければならないと感じている。

◎自分は小学生の時、再編を体験している。小規模の小学校から大規模の中学校に入学するとき、非常に不安だった。すぐく中学校が大きく見えたが、入学後、いろいろな世界を見せてもらい、一番輝けたと思っている。

◎今日は、学校のことがよく分からなくて参加させてもらった。

◎子どもは成人しているが、結婚はしていなく孫もないため、再編を自分事と感じていない。幼児教育と小学校教育の相互理解が必要と考えている。小学校の先生もこども園に足を運んでいただき、遊びの中の学びや感動を見ていただきたい。遊びが小学校の学習につながっていることを感じて欲しい。

⇒ ■幼・保・小・中の連続的な流れは必要である。つながっていることを教職員に伝えていきたい。



◎小学校が2校になると、市の中心部に学校が建てられると思い、村部は過疎化すると思った。村部は人が少なくなるという不安感があり、寂しいと感じた。

⇒ ■地域のこと、子どものこと、それぞれを考えると視点が違うため難しい課題であると考えている。

◎こども園の卒園児のことを思うと再編は常に気になっている。卒園児が小学校などで活躍しているとすごく嬉しい。幼・保・小の連携はさらに一歩踏み込んで進めて欲しい。

⇒ ■幼・保・小・中の連携は絶対必要である。国も連携を進めている。

◎子どもは小学校入学前に、学校への体験などがある。保護者も入学前にそういう場（体験）があれば安心すると思う。

⇒ ■小学校には学校開放日というのがあるが、未就学児の保護者も参加できれば、学校を実際に見て、感じてもらえ不安が解消されると思うので考えていきたい。

◎学校とこども園の交流ということで、普段の保育士の様子を教職員に見ていただく日があっても良いかと思う。季節ごとに遊びや学びごとは変わる。

⇒ ■逆に、保育士が小学校を見ていただく日があっても良いと思う。

⇒ ◎保育士と教職員が行き来する日があっても良い。教える者同士のやりとりが出来ていないと駄目である。

◎生まれは市外である。そこでは中学校1校（1学年8クラス）、小学校3校（1学年5クラス）であった。大野に来たとき、小中学校が多いと感じた。大規模の方が子どもは刺激があって楽しいのではないかと思うが、今と昔の子どもは違うと思う。手を掛けた方がいいと感じている。再編により、子どもに目が行き届かなくなるのではないかと心配している。

⇒ ■子どものために、どういう形がいいのかをしっかりと考えていきたい。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

